

2019.5

vol. 114

改訂版 vol. 44

# 女性委員会だより

らくだ 

公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367



## はじめに

委員長 長瀬 八州余

わからないなりに、皆さんに助けられて、一年間委員長を遂行することができました。ご協力ありがとうございます。

昨年度と今年度で建築士会女性委員会30周年記念事業を行っています。3つの事業があり、一つ目は4月20日に行われた「聴竹居・アサヒビール大山崎山荘美術館見学会」です。多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。

二つ目は、6月13日に計画されている、「祝賀会と見学会」です。女性委員が集い交流をするなかで、これからの10年について話し合いができればと思っています。

三つ目は平成20年からの10年間の女性委員会の活動を記録した「記念CD あゆみ」の作成です。20周年の時に記念CDを作っているの、それ以降の活動記録を網羅しています。6月の祝賀会までの記念事業までを入れて、作成する予定です。女性委員会のHPにも載せる予定ですので、CDが手元になくても内容を知ることができますと思います。

新元号になっての今年度の事業予定は、岐阜県が担当する「2020年度東海北陸ブロック会前期定例会議」の準備です。来年の6月に飛騨古川で開催するよう準備で忙しくなるとは思いますが、行事の準備だけに流されることなく、女性建築士として、皆さんで高め合っていく事ができればと思っています。

これからもよろしくお願ひします。



## 今回の記事

- ◇ はじめに
- ◇ 今回の記事
- ◇ 今後の予定・お知らせ
- ◇ 第61回建築士会全国大会 「さいたま大会」  
日時：平成30年10月26日（金）
- ◇ 第4回たくみ女子会  
日時：平成31年1月26日（土）
- ◇ 建築士会 東海北陸ブロック会 女性建築士協議会  
平成30年度後期ブロック亀山大会  
日時：平成31年2月23日（土）～24日（日）
- ◇ 平成30年度 建築士免許証明書交付式  
日時：平成31年3月2日（土）
- ◇ 第18回 気楽にらくだ会  
日時：平成31年3月2日（土）
- ◇ 女性委員会30周年記念事業  
聴竹居・アサヒビール大山崎山荘美術館  
見学会  
日時：平成31年4月20日（土）
- ◇ 編集後記



## 今後の予定・お知らせ

- ◆ 女性委員会30周年記念事業  
女性委員会30周年記念祝賀会  
日時：令和元年 6月13日（木）
- ◆ 東海北陸ブロック会 女性建築士協議会  
令和元年度前期定例 福井大会  
日時：令和元年 6月22日（土）



## 第61回建築士会全国大会

### 「さいたま大会」

日時：平成30年10月26日（金）

会場：大宮ソニックシティ

（埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5）

テーマ「歴史に感謝 未来に約束 今埼玉に集う  
彩り豊かな暮らしの創造」

参加者：2名



（会場入り口にて）

## さいたま大会に参加して

報告者：長瀬 八州余

今回参加の桂川さんと私は中津川市からの出発になるので、当日10時前に大宮駅に到着することは難しく、前泊ということになりました。事前に個人で宿泊を申し込んだ時は、喫煙室しか空いてなく、一応それで予約をして、当日チェックインの時に禁煙室が空いているか調べてもらい、チェンジすることができました。

前泊なので、その日は鉄道博物館へ行きました。帰りがけに、JR東日本が2017年に運行し始めた豪華列車「TRAIN SUITE 四季島」を見る事ができました。11月からコースが変わるので、ここで見る事は最後かもしれないと博物館の人は話していました。

## 10月26日（金）

桂川さんは午前「福祉まちづくりセッション」、昼食後、埼玉セッション①「川越の歴史的建築物の修復―施主と設計者は語る」に参加です。

私は午前「女性委員会セッション」、昼食後、埼玉セッション②「木目込み人形を作ろう」に参加です。

スケジュールがキチキチで、記念展示等を見学する時間がありませんでした。



（↑外の会場の様子）

昼食はお弁当を予約していました。今回は和風・洋風・中華と三種類の中から選ぶことができました。箱の色がピンク、水色、黄色と分けてありました。見本で中身がわかるようになっていなかったため、無難なところで和食にしました。



（↑和風のお弁当）



（↑食事風景）

昼食会場へ行くと、小林さんと会うことができました。今回小林さんは連合会会長表彰者でした。

セッション後、式典会場で桂川さんと落ち合い、式典に参加しました。  
今回の参加者は約3,000人ということです。  
式典のアトラクションは埼玉県立松山女子高等学校箏曲部の演奏でした。



(↑アトラクションの様子)

来年の全国大会は北海道の函館です。2019年9月21日(土)函館アリーナです。  
再来年は広島です。2020年11月14日(土)広島グリーンアリーナです。  
式典に参加して、この日は終わりました。

## 10月27日(土)

エキスカーションに参加です。  
Bコース「今に生きる建築 なにかいいことありそうな建築巡り」で、杉戸町の岩本邸と藤城邸、宮代町のコミュニティーセンター進修館と宮代町立笠原小学校を見学しました。

このコースの参加者は41名でした。  
今回Fコースの川越散策が多くの申し込みがあり、バス3台と言うことでした。

昼食は進修館にてうなぎ重の出前でした。



(↑岩本邸)



(↑藤城邸)



(↑コミュニティーセンター進修館)



(↑宮代町立笠原小学校)

少し早めに帰ってくることができたので、予定より速い新幹線に乗ることができました。  
長野駅にて「信州鹿肉そば」を食べて、帰ってきました。



(↑信州鹿肉そば)

楽しい全国大会参加でした。

## 【セッション一覧】

・ヘリテージマネージャー・歴史まちづくりセッション

・地域実践活動発表会（青年委員会）

・女性委員会セッション

・空き家まちづくりセッション

・福祉まちづくりセッション

・防災まちづくりセッション

・情報部会セッション

・環境部会セッション

・歴史・景観まちづくりセッション

・埼玉セッション① 川越の歴史的建築物の修復

……施主と設計者は語る……

・埼玉セッション② 木目込み人形を作ろう

この色のあるセッションは報告書がある

セッションです

## 女性委員会セッションに参加して

報告者：長瀬 八州余

テーマ

『和の空間の魅力を探る 「魅力ある和の空間ガイドブック（WEB版）」制作記念トーク』

最初に連合会女性委員長の小野委員長より趣旨説明がありました。

その後、施設紹介とパネルディスカッションです。

コーディネーターとして東京建築士会の多羅尾直子氏、

パネリストとして4名、

北海道建築士会 早川陽子氏、

愛知建築士会 筒井祐子氏、

京都府建築士会 瀧口静氏、

岡山県建築士会 北山裕美子氏のメンバーで、今回の「魅力ある和の空間ガイドブック（WEB版）」の特徴等を話されました。

北海道建築士会・・・和洋折衷から学ぶ和室の魅力

北海道では和の空間と洋の空間が違和感なく続いていると今回シートを作成していて気がついた。

東京建築士会・・・現代の住まいに活かしたい和の空間

愛知建築士会・・・伝わる空間力

来ていただきたい、見ていただきたいので、来やすい場所の建築物を選びました。

見ていただければ、身近な建物として参考になるのではないかと思います。財力なくても材料を選ばなくても、デザインで勝負できると思っていただけるのではないかと思います。

京都府建築士会・・・京都の歴史を物語る数々の和の建築

検索したらすぐ出てくる物ではなく、地域の物で検索すると出てくる物で、気候風土に対しては同じスタンスで、バリエーション豊かな物を選びました。簡素な物、豪商な物、古い物など。

## 岡山県建築士会・・・岡山藩主池田家の地域で愛される和の空間デザイン

池田家を中心に選んだようになってしまったが、結果こうなっただけです。

岡山藩2代池田綱政（つなまさ）3代池田綱政（つぐまさ）親子が家臣の津田永忠に作らせたのが始まりで、土地を見て地域に合った物を作っていたと考えます。

（各県のリストはWEB版を、このセッションの資料は連合会の  
[www.kenchikushikai.or.jp/data/zenkokutaiikai/61th\\_saitama/181030\\_saitama\\_session.pdf](http://www.kenchikushikai.or.jp/data/zenkokutaiikai/61th_saitama/181030_saitama_session.pdf)  
をご覧ください）

各県の発表後、この作業に携わって感じた事などを、話されました。

- ・自分の県の中に何があるのか考えるきっかけになった。
- ・身近にあったなあと再確認できた。
- ・今回の和の空間は割と昔の物が集まった印象なので、もう少し現代寄りの物のガイドブックを作れるとうれしい。
- ・WEB版なので、その場ですぐに調べることができて良かった。今回、愛知県は川越の見学に行ってきました。
- ・建築士会という団体を知ってもらえた。
- ・今回のおつきあいをきっかけに、維持管理についても相談をしてもらえる関係を築けた。
- ・英語版を作るともっと見てくれる人が増えると思われる。（今後の課題）

このように作成に携わった方にお話を聞くと、こんなことを感じながら作業をなさっていたのかとか、このような視点でまとめてみえたのかなど、いろいろなお話を聞くことができました。



（↑会場の様子）

## 福祉まちづくりセッション

『福祉まちづくり建築士の育成に向けて』

—2025 地域包括ケアシステムにおける住まいの担い手・建築士とは—

報告者：桂川 麻里

まず、住宅系の事例報告を7つ発表して頂きました。岐阜県は女性委員でもある下川さんから岐阜県の取り組み「私のまちの建築士をめざして」について発表して頂きました。前年度は病氣の内容等も含めた研修を行い「福まち建築士」を誕生させ、今年度は福祉まちづくり建築士相談派遣制度を始めました。まず、活動内容を市町村の高齢福祉課や地域包括支援センターへあいさつまわりをし、その他にもまだまだ勉強不足の部分もある為、勉強会や事例紹介等も行っています。女性委員の中でも何名か「福まち建築士」として活躍しています。

**愛知県**は「福祉のすまい特別委員会のとりくみ」を  
発表して頂きました。地域ケア会議に出席出来るよ  
うに活動し、医療従事者等とともに話し合い等をもっ  
て、色々な障害に対してどのようなことができるか  
模索しているそうです。問題点として、リフォーム  
詐欺に合う高齢者が多いそうです。建築士に対して  
は年8回に渡り講習を行っているそうです。

**群馬県**は「高崎市におけるリフォームヘルパー」を  
発表して頂きました。補助金について見積書が適正  
かどうかチェックするそうです。また、介護保険の  
パンフレットに「リフォームヘルパー」について  
の内容が記載されているそうです。一般の方が目にす  
るものに建築士としての存在が記されているのは大  
変良い事例だと思いました。

**東京都**は「福祉まちづくり・バリアフリー特別委員  
の取組み」を発表して頂きました。

福祉用具や福祉施設の理解を深め、多面的にとらえ  
られるように今年度は3つの内容「バリアフリー」、  
「認知症を知り、生活空間を考える」、「医学博士  
による健康長寿と住環境の関係」にて講習を行って  
いくそうです。他県の内容も参考に岐阜県でも行う  
と良いと思いました。

**秋田県**は「秋田花まるっ住宅サポートネットワー  
クの取組み」を発表して頂きました。

平成15～17年で各地域においてバリアフリーコーデ  
ィネーターを誕生させ、6チームで活動をしていたそ  
うですが、現在は3チームだけとなってしまったそ  
うです。如何にして継続させていくかが課題だと思  
いました。建築士だけではなく他の分野の方とも情  
報交換を行い、一般市民の方も参加しているそうで

す。岐阜県でも今後利用して頂く一般市民の方の意  
見も取り入れていけると良いと思いました。

**石川県**は「石川県におけるバリアフリー住宅改修  
等への支援について」を発表して頂きました。

他のセッションと重なっているため部会長さんが代  
わりに発表してくれました。建築士会での活動では  
なく「バリアフリー総合研究所」という別団体で活  
動しているそうです。派遣のタイミングは事前の打  
ち合わせ、施工中の打ち合わせの2回で費用は研修  
センターから出ていて一式1万円ではありますが、  
年間で46件の依頼があるそうです。

**徳島県**は「バリアフリーデザイン研究会の活動」を  
発表して頂きました。

依頼を受けた後、事前打ち合わせの時から他の専門  
家と共に聞き取りや調査を行うそうです。平成5年  
から始めて現在までに800件の実績があるそうです。  
一番初めから色々な専門家と共に行うことで、施主  
様にとって負担が少なくなるので良い取組だと思  
いましたが、そこまでになるまで大変だったと思  
います。



(↑各県事例報告)

次にその他の2つの事例報告をして頂きました。

**建築士会連合会**からは「2020年大会に向けたピクトグラム(図記号)のあり方の会議と国土交通省のホテル・旅館に関する建築設計標準改定委員会の報告」をして頂きました。

2020のオリンピックに向けて、介助用ベッド、ベビーカーチェア、おむつ交換台、こどもお手洗、着替え台、簡易型オストメイト用設備、男女共用お手洗、カームダウン・クールダウンの8つのピクトグラムが追加されるそうです。

(URL 参照

[http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/picto\\_add2018.html](http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/picto_add2018.html))最後のカームダウン・クールダ

ウンは図を見ても説明文を読んでも良くわかりませんでした。パニック症状をおこされた方がリラックサするための場所となるそうです。これらは国立競技場等に設置されるそうですが、今回このセッションに参加していなければ知らなかったの、2020年までに一般の人々にももっと知ってもらわないといけないと思いました。

**兵庫県**からは「福祉のまちづくりアドバイザーによるチェック&アドバイス制度について」報告して頂きました。

平成4年10月に「福祉まちづくり条例」を全国に先駆けて制定し、利用者目線で公共施設等を整備してきたそうです。研修を受けた建築士・社会福祉士・理学療法士・作業療法士等を専門家アドバイザーとして、また研修を受けた障害者等の利用者を利用者アドバイザーとして「福祉のまちづくりアドバイザー」として登録しているそうです。利用者アドバイザーは現在4人だそうです。

次に行政説明として、厚生労働省 老健局 高齢者支援課 福祉用具・住宅改修指導官 松本琢磨様に『地域包括ケアシステムと高齢者の住まい』というテーマで「地域包括ケアシステムにおける高齢者住まいの考え方と介護保険での福祉用具・住宅改修について」という内容でご講演して頂きました。

松本様は平成元年から作業療法士として、交通事故による高次機能障害や障害のある小児をどう生活に戻すかということをして29年間行ってきたそうです。

介護保険を取り巻く状況、高齢者の住まいの考え方、介護保険の福祉用具、介護保険の住宅改修、福祉用具・住宅改修のあり方の5つの内容についてお話して頂きました。

出生率は世界的に減っているが、65歳以上の高齢者の数が日本は世界的に一番多いそうです。ということはやはり、在宅で介護をしなければならない人たちが増えていくことは間違いないと思います。そう言ったことから医療における方たちだけでなく住宅に係る私たちも建築士として出来ることは何かということをして一人一人が考えていかなければならないと思いました。



(↑行政の説明)

## 埼玉セッション①

『川越の歴史的建築物修復』—施主と設計者は語る—

報告者：桂川 麻里

### 【第1部 基調講演】～川越が今に至る経緯

や活動紹介～ 荒牧澄多氏

川越の伝統的建造物保存地区は現在足場や仮囲いができない状態の写真が撮れないほど修復が随時行われているそうです。

川越は川越城下町を中心に歴史的エリアとして伝統的建造物保存地区があり、そのすぐ横に近代的エリアとして事業地が建ち並び、周りには農業地帯が広がっている、歴史・事業・農業がバランスよく整っている地域だそうです。

初期運動から単体保存へと移行していった背景には、大火によるところが大きいようで、1633年(寛永10年)に川越大火があり、その頃に都市計画が確立されてきていて、1893年(明治26年)にも大火があり、そこで燃えにくい蔵造りの街並みが形成されていったそうです。その時に参考にしたのが東京の蔵造りで、東京の蔵造りを模したものだというのは以前より認識されていたそうです。

その中でも唯一江戸型の住宅として大沢家住宅が1971年(昭和46年)重要文化財として指定され、伝統的建造物保存地区の調査がなされ、「川越街並み委員会」が発足して30年となっているそうですが、長く活動を途切れさせることなく進めてきて、通常徐々に失われていく建物を守っていく活動をしてきた結果うまく保存がなされている気がします。

まちづくり規範を決めて、そのように徐々に改修していくことで、建物だけでなく看板等も伝統的建造物保存地区に合わせて地域の皆さんで変えていっているのはすごいと思いました。



(↑ 基調講演の様子)

### 【第2部 パネルディスカッション】

まず、守山登氏(設計)と松村定明氏(施工者)の歴史的建造物の修理事例をお聞きました。

1件目はリフォームで配管を隠すための造作が既存の建物の構造材を痛めているという事例でした。そこは施主様としては普段利用するものではない客用の水回りだそうです、直すことによって施主様として何ら利益があるわけではないが、街並み保存のために協力して頂いている部分もあることに悩んだそうです。

2件目は2,400万掛けて新建材で改修されていたものをもう一度初期の建物に復元していくという物件でした。しかし、写真等の情報もあまり残っていないので構造体等から推測して復元したそうです。景観を壊さないように外観からは分かりにくいよう

にしてありますが、新耐震による耐力壁も設置したそうです。

3件目は3件の建物を移築してきて合体させているような建物で、最初は6,000万の見積でしたが仕様変更等により約半分の額で改修したそうです。

次に馬場崇氏(設計)と小島正巳氏(施主)に小島家店蔵改修工事をお聞きました。

小島氏は川越で生まれ、以前の仕事の中で川越の良さを知り自分で川越の為に何が出来るかを考えて、朽ちている店蔵を購入し修復することにしたそうです。馬場氏は昔の写真と小島氏のイメージや写真を元に設計していき、それで終わりではなく工事中にも密に打合せをして復元していったそうです。施主様の意向の建物にしていくことが一番ですが、施主様自体が地域の事を理解し、歴史的住宅を修復できるのは最も良い流れだと思いました。

以上の流れの後でパネルディスカッションが行われました。

その中で、外部から来る方は川越の街並みを理解した所有者となりやすいが、元々住んでいる方々は反対に便利さを求めてしまう為理解を得るのに苦労するというのはどこの地域でも同じだと思いました。川越自体では廻りに歴史的建造物が少しずつ増えているためそれを元に説得して理解を得やすいですが、すでになくなった建物が多い為一件だけを残すというのは非常に難しいことだと感じました。

また、修復となると施主様にとっては思っているよりも高い見積金額となることが多いですが、補助金が出るということでなんとか踏み出せているのが現状のようです。こうなると補助金がなくなった時

にこの流れがストップするのではと不安にはなりませんでした。加えて補助金は年度予算というくりがある為年内完成ということが一番寒い時期に左官仕事等をするようになってしまうため厳しかったそうです。新築ですと工事期間が分かりますが、修復ですとめくってみないと分からないことが多いのに、後ろが決まってしまうのも疑問に思いました。

現在このような街をあげての活動を行っているところでも、修復の設計が出来る建築士を団体を作って活動することによってなんとか保っている状態だということですが、大工の数がそれ以上に減っているためそちらの団体を作っていくことが今後の課題だそうです。

これはどの地域でも課題だと思うので、色々な情報を集めていきたいです。



(パネルディスカッションの様子)



## 埼玉セッション②

埼玉の伝統産業のひとつ…岩槻のひな人形 木目込み人形を作ろう！！

報告者：長瀬 八州余

指導者：経済産業大臣指定伝統的工芸品江戸木目込み人形伝統工芸士 森田和雄氏

岩槻の人形の始まりは江戸時代初期にさかのぼり、日光東照宮造営のために、全国から優れた工匠が集められ、江戸から日光へ向かう日光御成道の最初の宿場である岩槻にも、多くの工匠が訪れた。岩槻周辺には多くの桐の木が植えられており、それに目を付けて職人たちが、岩槻やこの周辺に定着し、桐のタンスなどを作るようになる。それらを作る中でできる桐粉(おがくす)を利用して人形作りがおこなわれるようになった。

岩槻で作られる人形は、衣装着人形とも呼ばれる「岩槻人形」と筋を彫り入れた胴体に布地を埋め込んでいく「江戸木目込み人形」の二つに大別される。今回は木目込み人形を作ります。

当日受付もあり、定員 60 名が埋まりました。

最初に簡単な説明があり、時間が限られているので、すぐに作業に入ります。

初心者用に切り込みの深いキットが用意されていました。

森田先生の他に先生の奥さんや、その他の先生、埼玉の女性委員も事前に練習して、教えることができるように準備されていました。

私は初めての作業でどうなるかと心配でしたが、どうか時間内に作る事ができた良かったです。良いお土産になりました。

埼玉県建築士会女性委員の皆様、ありがとうございました。



(↑江戸木目込み人形と岩槻人形と今回のサンプル)



(↑作業風景)



(↑講師の森田和雄氏)



(↑できあがった作品)

## 【エキスカーション 一覧】

A コース 「大宮」地名の由来氷川神社と盆栽村・鉄道博物館

B コース **今に生きる建築 なにかいいことありそうな建築巡り**

～杉戸町・宮代町～

C コース 日本遺産「足袋蔵のまち行田」の町歩きと  
国宝「妻沼聖天山」の縁結び  
～行田市・熊谷市～

D コース 異文化交流の歴史とパワースポットを巡る  
～坂戸市・日高市・飯能市～

E コース 近代和風建築「遠山記念館」と  
ユネスコ無形文化遺産「紙漉き」体験  
～川島町川島町・東松山市・小川町～

F コース タイムスリップ気分！ 小江戸川越散策

6コースあり、そのうち私たちが参加したのはBコースです。



(↑ 藤代邸前にて集合写真)

## エキスカーション Bコース

『今に生きる建築 なにかいいことありそうな建築巡り』  
～杉戸町・宮代町～

報告者：桂川 麻里

昨年、岐阜県建築士会の「ぎふ木造塾」で降幡先生の講義をお聞きし、一度見てみたいと思いましたが、現在もお住まいになっている古民家ですと見る

ことは出来ないなと思っていましたが、今回岩本邸と藤城邸を、それ以外にも1級建築士の試験にも出たことがある宮代町立笠原小学校が見学出来るということでBコースに参加してきました。

最初は杉戸町へ古民家再生の建物を見学に行きました。

岩本邸は200年以上経過し、更に30年以上空家となっていたものを1984年(昭和59年)に再生した建物です。降幡先生の写真や本等では完成されたばかりの建物が掲載されていて、そのイメージが頭の中に強く残っていたので、実物を見た時なんとも言えない時の経過を感じました。34年も経っているのに当たり前と言えば当たり前ですが、それでも降幡先生の言われた「時代が変わってもデザインの魅力は失わない」という言葉がしっくりくる感じそのままの建物でした。

建築家清家清氏の親戚の家ということで、取り壊しを免れたという建物には現在も3世代4人が住んでいるのにも関わらず、41名の大団体を招き入れてくれ感謝してもしきれないほどです。内部まで見せて頂けて、古民家再生とはこうあるべきだと実感させて頂きました。



(↑ 岩本邸にて)

次に訪れた藤城邸は1985年(昭和60年)に修復したときから寝泊まりはしていないそうですが、法事などの集まりの時に利用していたそうです。当時のお金で約4,000万円で、再生したそうです。現在は月に2回程度風通しに来ているそうですが、近年の大雨等によってだいぶ傷んできているので、管理がとても大変だそうです。住んでいれば痛みも遅いですが、こういう建物を残す為にもっと国で補助をして欲しいと思いました。

藤城邸の近くには見学は出来ませんでしたが、同じように再生した大島邸（大島有隣生家）の建物もありました。



(↑ 藤城邸にて)

次に宮代町へ移動し、象設計集団の設計した建物を見学に行きました。

見学の前にコミュニティセンター進修館の研修室でうなぎを頂きました。今年は全建女高知大会のエキスカーションでもうなぎを頂いたのうなぎ尽くしの得した年になりました。



(↑ 昼食のうなぎ)



(↑ 研修室での食事の様子)

昼食を食べながら、進修館や笠原小学校の造られた時代の背景や、1960年代とは違って衰退の一途をたどっていた1970年代の建築家の方々の努力等を埼玉県建築士会員の手島氏にして頂きました。その中でも当時の町長の「庁舎はボロでよい、町民の集会所に金をかけ、世界のどこにもないものを建てよう」という言葉に、その精神で現在でも町のままで豊かな場所になっているのだと感じました。

昼食の後、ボランティアガイドさんのお話を聞きつつ建物内部と外部の見学をしました。大ホールは使用中の為見学出来なかったのは残念でしたが、世界の中心のひとつとしてこの建物が建てられている話や、日本の民家を意識して12か所の出入口を設けて、どこからでも入れる建物である等いつでも誰でも入れる建物ではありますが、説明を聞いて色々なことを考えて設計されていることがよく分かり、とても面白かったです。



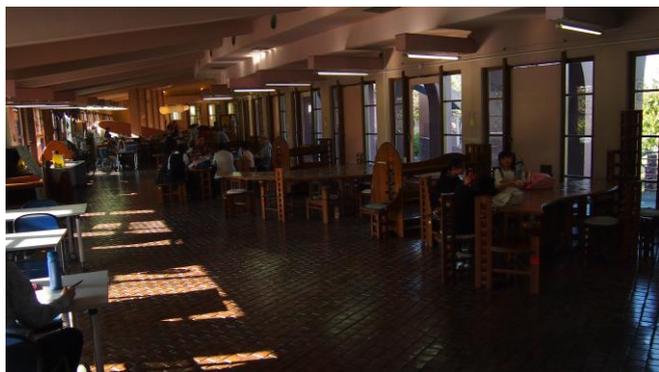
(↑ 進修館全景)



(↑ 扉の取っ手は宮代町名産の「ぶどう」がモチーフになっている。)



(↑小ホール 見学風景)



(↑2階内部の様子)



(↑階段)

進修館から歩いて最後の見学場所である笠原小学校へ移動しました。その途中に町民が考えた公衆トイレ「四季楽～メイドイン宮代トイレ～」がありました。20年以上前のトイレですが、町民の手が加えられている為か、とてもきれいに使われていました。こういった試みは大切ではないかと思いました。

原小学校も他の小学校も同じように敷地内に入るには厳重にフェンスで囲まれていて、門も常に閉まっている状態ですが、校舎への入口は進修館同様どこからでも入ることが出来ました。また、はだしの学校ということで、至る所に足洗い場が設置されて

いました。子供の目線を重視した校舎づくりというコンセプトの通り、ただの四角い箱ということではなく、林立する柱には文字が描かれていたり、廊下の手すりには小さい椅子が組み込まれていたり、そろばんの玉のような遊具が組み込まれていたりしました。校庭のみではなく2階部分にもビオトープがあったり、米を育てる授業があるそうですが、2階の手摺は手摺機能のみではなくのその刈り取った稲を干すために造られたものであったりと至る所に工夫が施されていました。



(↑渡り廊下)



(↑廊下の椅子。左右に見えるのがそろばん玉の遊具)

今回は貴重な建物がぎゅっと詰まった見学会で、貴重な建物を拝見できて、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今回女性委員会からは2人の参加でしたが、もっと多くの方に参加して頂き、他では見る事の出来ない建築物に触れて欲しいと思いました。



## 第4回たくみ女子会

日時:平成31年1月26日(土) 13:30~16:30

会場:OKB ふれあい会館 14階 展望レセプションルーム  
(岐阜市藪田南5丁目14-53)

参加者:約70名(内女性委員8名)



(↑第1部の女性エンジニアによるセミナーの様子)

## たくみ女子会レポート

報告者:大上 さおり

今回で第4回となる「たくみ女子会」。

あいにくの雪予報にも関わらず、沢山の女子学生さんたちが参加してくださいました。

開会にあたり、岐阜県立国際たくみアカデミー校長山内義之様より、「建築業界はクリエイティブで一生の仕事にできるということで人気が高まっている。今日は、建築界の雰囲気を知って。」と、建築士会の横井会長からは、「昔の人は手に職をつけろ、とよく言ったが、建築の仕事というのは一度身に着けると育児等で一時離れることがあっても、戻って働くことができる。建築の仕事といっても様々なので、今日は自分に向けた分野を探してほしい。」と、ぎふ建築担い手育成支援センター富田禎人様からは、「建築業界はかつては3Kのイメージだったが、今は女性にとって働きやすい職場になっている。今日は建築業界の魅力を感じて帰ってほしい」と、それぞれごあいさつと学生さんに対するエールをいただきました。

女性エンジニアによるセミナーは、株式会社アルティ― CADチーム課長の服部典子様より、「私のお仕事体験」として、ご自身が今の仕事を選んだきっかけから、プ

レカットにおけるCAD技術者の役割、仕事のやりがいなどについてお話いただきました。

「もう少し学生をやりたいから、当時目新しかったCADの専門学校に進んだ。」

「就職する時にはやはり当時目新しかったプレカットという分野と、何となく興味があった『住宅』という興味が重なった職場を選んだ。」

「何もないところから、形になっていくのを見届けるのは楽しい。打ち合わせなどで適度に外出できて気分転換になる。」

「建築知識のない人も働いていて、一つ一つ知識を習得している。」

といった具体的で親しみやすい内容で、建築の仕事を身近に感じていただけたのではないかと思います。

グループトークでは、建築業界への就職が内定している学生さんから、建築業界で働けなから、女性であることで不利だと感じたことは？建築業界で働く女性として気を付けることは？といった質問が寄せられ、昔と違って女性であることで不利な扱いを受けることはなく、むしろ有利である場合もある。腕力など、どうやっても男性にかなわないことは意地になって頑張らず、助けを求めて、といったアドバイスがされていました。

また、建築を学ぶ学生さんからは、家業が設計事務所や工務店の同級生や発想力の高い同級生は、課題のクオリティが高く自信を無くすことがある、といった悩みや、学生のうちにやっておくべきことは？といった質問があり、建築業界は生活者の視点で、丁寧にコミュニケーションをとりながら生活者に必要な空間を一つ一つ作っているごく普通の人たちが支えている。学生のうちに色々な体験をし、いろいろな建築を体験して、といったアドバイスがされていました。

今回は、建築学科以外の学生さんも参加してみえたのが特徴で、商業科や農業科といった異なる専門分野で学んでいるが、建築系の大学や専門学校への進学を考えている、といった方もみえて、工業高校以外にも案内を置かせていただいた効果が出ていると感じました。



(↑お菓子をいただきながらの、グループトークの様子)



## 建築士会東海北陸ブロック会

### 女性建築士協議会

### 平成30年度後期ブロック亀山大会

日 時:平成31年2月23日(土)～24日(日)  
 会 場:開会式・会議・閉会式 亀山市文化会館  
 (三重県亀山市東御幸町 63 番地)  
 女性分科会 亀山市関文化交流センター  
 (三重県亀山市関町泉ヶ丘)  
 懇親会 ドライブイン あんぜん文化村  
 (三重県亀山市太岡寺町 1170)  
 宿泊 ホテルルートイン亀山インター  
 (三重県亀山市太岡寺町字下谷 1195-9)

テーマ:まちなみ・保存と活用 ～三つの「繋がり」が重なる三重～  
 参加者:3名



(↑見学会 資料館にて記念写真)

### 平成30年度ブロック亀山大会に参加して

報告者:長瀬 八州余

2019年2月23日(土)24日(日)の二日間、岐阜県建築士会女性委員会は桂川さん、井之口さんと私の3名で参加してきました。

桂川さんの車で長瀬は乗せてもらい、JR 亀山駅に向かいます。

東名阪自動車道の御在所 SA 付近がいつも混むということで、時間の余裕をみて出てきましたが、思っていたよりスムーズに進みました。

JR 亀山駅で11時7分着の井之口さんを待ちます。その時に三重県建築士会のハッピーを着ている人と男性が

2人、駅の待合室に居たので、亀山味噌焼きうどんについて少し話をうかがいました。



(↑JR 亀山駅待合室にはお雛様が飾ってありました。)

井之口さんと合流して、駅前の「レストラン サツキ」に行き、亀山味噌焼きうどんを昼食に食べました。しっかりとした味つけで、美味しかったです。



(↑亀山味噌焼きうどん)

少しゆっくりしすぎたようで、亀山市文化会館に12時ぎりぎりになってしまい、受付でバタバタでした。

先ほど駅で一緒したハッピーを着ていない方が、開会式で三重県建築士会の会長として挨拶をされました。もうビックリです。



(↑開会式にて 三重県建築士会会長 森本則晃様挨拶)

開会式後、女性建築士協議会はバス移動で、関宿へ向かいます。バスは観光バスではなく路線バスです。



(↑バス内部の様子)

ボランティアガイドさんの説明を受けながら、町歩きをして、集合時間まで自由散策です。



(↑ボランティアガイドさんのハッピー)

集合後、亀山市立関中学校へ向かい、内部を見学して、亀山市関文化交流センターにて女性分科会の講演会です。

講演会后、バス移動でホテルに向かいます。ホテルについて、チェックインをして、ホテル隣のドライブインあんぜん文化村にて 18:45 から懇親会です。

懇親会のアトラクションは3名の忍者でした。

21:00 からはホテルの1階の食堂で茶話会です。明日の会議では細かく話せない、2020 年度後期ブロックの愛知県担当ワークショップについて話し合いがなされました。

今回ホテルは3名ともシングルの部屋だったので、朝の食事時間も各々自由でホテルロビーに集合としました。

亀山市文化会館へは、三重県が手配したタクシーで移動です。

9時から 11 時半まで会議でした。

閉会式後、亀山味噌焼きうどんの発祥の「亀とん食堂」へ行って昼食です。

本来の亀山味噌焼きうどんはホルモン焼きの締めうどんを入れて食べたのが、発祥だそうです。

昨日食べた皿盛りとは違い、鉄板の上で焼いて、ご飯のおかずでうどんをいただきました。焼き方にもコツがあり、焦げないように炒めなくてはなりません。

私たちのやりようを見て、これはダメだと思われたでしょう、ご主人さん直々に焼いてくださいました。それで焦げることなく美味しくいただく事ができました。

本来ならビールをいただきながら食べるものなのでしょ

うね。あとご主人さんに、「味噌が飛ぶので白い服でこない方が良い」と言われました。今回3名中2名が白色インナーを着ていました。

ホルモンがダメな人がいたのでバラ肉とカルビ肉それぞれ2人分、キャベツの水分で焼いていきます。あまり広げすぎると焦げるとの事、慣れない私たちを見るに見かねて、お店のご主人さんが炒めてくださいました。



(↑白衣がご主人さん。うどんを入れて炒める。)

美味しくいただきました。

井之口さんを駅まで送り、私たち2人も帰路につきました。

三重県建築士会の皆様お世話になり、ありがとうございました。

## 【見学会】

関宿伝建地区の町並みの見学と亀山市立関中学校にて施設見学

## 【女性分科会】

講師: 中浦 豊子氏

(NPO 法人 亀山文化資産研究会 会長)

テーマ: 「NPO 法人 亀山文化資産研究会」の活動内容について



(↑ 中学校前にて集合写真)

## 見学会に参加して

報告者: 井之口洋子

開会式に出席したあとはすぐ見学会に出発でした。移動のバスから降りると、想像より風が強く、風に慣れてないのでダウンコートを着てきて正解でした。

最初にボランティアガイドさんより関宿のあらましを聞きました。

関宿は東海道五十三次の47番目の宿場町として栄えていました。

1984年に三重県初の「重要伝統的建造物群保存地区」に選ばれ、これは東海道五十三次の中で唯一だそうです。

西の追分から東の追分まで1.8kmの宿場町です。見学は西の追分から東の追分に向かって見学していきます。

最初は旧田中家住宅。

元々は庄屋だったそうで江戸の後期に建築されました。間口が8間半もあり、普通の町家の2、3件分の大きさになるそうです。

派手さはないものの質が良い建物で平成23年～25年にかけて調査と修復がされたそうです。



(↑ 内部見学の様子)

2番目は地蔵院。

本堂は鎌倉時代に建築されたそうで、厨子が秀吉より寄贈されたとのこと。



(↑ 地蔵院正面)

こちらの地蔵院の前には「あいづや」という食事処が有り、屋根のついた立派な看板がひらがなで表記されているのですが、京都へ向かうならひらがな、江戸(伊勢)へ向かうなら漢字になっていて旅人が迷わない工夫だったそうです。



(↑ ひらがなの「あいづや」)



(↑漢字の「会津屋」)

3番目は旧落合家住宅。

こちらは持ち主が解体しようとトラックを家の前につけたところを市の職員が気づいて、解体を阻止したというエピソードを聞きました。

その後改修工事が行われ、限界耐力計算法を用いたそうです。補強の金物が見えていました。



(↑見えている補強金物)

4番目は玉屋。

関宿を代表する大旅籠の1つです。

雨戸が3枚になっていてすりあげ戸でした。女性の力でも楽に開け閉めができると説明をもらいました。

中はとても大きく、武士が泊まるお部屋は離れ座敷になっていて欄間なども立派でした。



(↑雨戸の開閉の様子)

5番目は百六里庭。

江戸から百六里の位置にあるから百六里庭。

元々は飛脚の継ぎ場だったそうです。現在は防災公園になっています。

入口が立派な門になっていると思ったら2階に上がることができ、そこから関宿の家並みが一望できました。

階段幅がとても狭かったのですが階段は2つあって一方通行になっていましたので通行に支障はありませんでした。



(↑建物上に上がって、町並みを見る)

最後は関まちなみ資料館。

玉屋の斜め向かいです。一般庶民の町家建物だそうです。

市が買い取って資料館としているようです。

一般の家で使われていた道具などが展示してあり、箱階段は実際に2階まで上がる階段として使われていたので初めて足をのせてみました。ちょっと嬉しかったです。



(↑箱階段 使用できます。)

2階には関宿の町並みの写真が昭和59年→平成9年→平成19年と同じアングルで実際の町並みを比較できるように展示してあり、とてもわかりやすかったです。



(↑写真ではわかりにくいかもしれませんが、同じ場所を撮った連続写真です。)

伝統的建造物群保存地区に選ばれてから35年。市の方々が大事にするために、道路をカラー舗装して電柱の無柱化に取り組んだりしていて、今後は本陣を復元したいと思っていると構想も聞かせてもらいました。



(↑電信柱の見えない町並み。ハッピーを着ている方はボランティアガイドさんです。) 名物の「志ら玉」の前田屋製菓はお休みでした。)

伝統建築に認められた建物には銅板のプレートが玄関に取り付けてあり、誇らしくみえました。関宿に400戸から600戸ある内の200戸程が対象になっているそうです。



(↑銅板の標識)

また、改修のために伝建建物には80%の補助金、非伝建建物には30%の補助金が出るなど保存活動にとっても熱心でした。

最近では若い人や海外からの移住も受け入れていてセカンドハウスの的に使うことにも理解がありました。

ボランティアガイドの説明のあとは自由散策でしたが、三重県建築士会の大森さんが案内をしてくださるのでご厚意に甘え、東の追分まで足を伸ばし、伊勢神宮の式年遷宮の際の鳥居が移設されているのを間近に見てきました。



(↑伊勢神宮から移設された鳥居)

散策途中では町並み保存に関する貴重なエピソードを聞かせてもらい、次の分科会で取り上げられる物件も実際に見ることができて(時間が無くて中には入れませんでした)とても有意義でした。

短い時間でしたのに少し距離がありましたが、ご案内頂きありがとうございました。

関宿の見学のあとは亀山市立関中学校の見学でした。

木造2階建て一部鉄骨造で、平成22年に建設されました。

最初に案内されたのは多目的ルームです。

ここは、毎日生徒全員と職員が給食を食べるランチルームでもあるそうです。

入ってまず驚いたのが、大きな丸太の柱です。地域の山から切り出したそうです。建設のための木は設計段階で切り出して1年の乾燥期間をおいたそうです。



(↑多目的ルーム内部)

学校ですので、建物は準耐火建築物にしなくてはならないために、色々と工夫がされていました。木造のラーメン構造になっているらしく、特殊な工法にて施工されたようです。

柱、梁の接合部にはD25の鉄筋が入りその廻りをエポキシ樹脂を注入して固めたとのこと。見た目では分からないのですが、施工途中の写真を見せて頂きました。

又、梁に照明器具を埋め込むようになっていて、梁せいはそれを見込んでの設計でした。木造にこだわった設計で引き戸の防火戸も初めて目にしました。確認申請が下りるのに半年もかかったそうです。

庭に面する教室群は緩やかな曲線を描いていて、関宿の街道を模しているそうです。瓦屋根の軒先にはその当時の生徒が選んだ文字が入ってしまし

た。

多目的ホールのあとに、教室を見学しましたが、南側が廊下で北側が教室という配置になっていました。



(↑軒先の文字)



(↑教室群の全景)

どの教室も内装に木がふんだんに使われていて、参加者が「こんな教室で勉強したかった、羨ましい」と口々に話していました。

途中にあるトイレ、更衣室の前には子供のたまり場となるような腰掛けスペースがあり、少し困われている感じがくつろげそうでした。

自分の小学校がRC造の校舎でしたので、全く違う雰囲気戸惑うばかりでした。



(↑廊下に張り出ている腰掛けスペースの外観)

外壁も木がふんだんに使われているのですが、防火塗料を塗ってあるそうです。

メンテナンスを考慮して塗りにくい箇所はサイディングにしてありました。

数年前の塗り替えには 800 万円は掛かったそうです。



(↑塗装の違いの説明をうけましたが、目視ではよくわかりませんでした。)

エアコンのドレインもうまく建物になじむように設計デザインされていて、設計者の苦勞が見えました。



(↑ドレインの目隠し)

決められた時間の中で、関宿と関中学校を見るのは大変でしたが、しっかりポイントを押えてあった見学会だったと思います。

三重県の女性委員会の方々はセレクトマップを作ってくださいたりと、色々準備が大変だったことと思います。ありがとうございました。

## 分科会

### 『NPO 法人 亀山文化資産研究会』

報告者：桂川 麻里

関宿、亀山市関中学校の見学の後、亀山関文化交流センターで、分科会を行いました。

三重県建築士会会員の、NPO 法人 亀山文化資産研究会 会長の中浦豊子氏に活動の報告をして頂きました。

最初はヘリテージ講習会の走りである歴史的・文化的資産保全活用推進員養成講座を受けたことがきっかけで、その時の受講生が集まって研究会を立ち上げたそうです。最初は 20 名だったのが現在は 12 名だそうです。それでも発足が 2007 年で現在までそれだけ継続されていることは素晴らしいことだと思います。

その後 2009 年には三重大学の依頼により基礎資料の作成を行い、街並みの特徴を明らかにしていたそうです。

2011 年には伝建建造物以外の非伝建建造物の調査を行って、価値ある建物が多数ある事を把握したそうです。伝建建造物等に指定されていない建物でも価値あるものは多数ありますが、いつの間にか気づいたらなくなっていたと言うことが往々にしてあり、また、壊されるときにはじめて存在に気づいても後の祭りということもあります。それをまだ残っているうちに調査することは大変重要なことだと思います。

建物調査以外にもそれに付随する勉強会や地域にその魅力を知って頂ける講座も定期的に行ってきたようです。建物の重要性を地域の方々に知ってもらうのも大切なことだと思いました。

他にもお城をバックに七五三の写真撮る行事も行っているようです。普段は興味のない子供たちでも写真を撮ることで建物の存在に気付いてもらえたら嬉しいと思います。その時におっしゃっていた言葉が印象的でした。『何かの行事を行う時は 3 年は行うと決めている』という言葉です。1 年目、2 年目は続いてもなかなか成果が上がらないと継続されないことが多々あります。そこを踏ん張ってもう一年やることで、存在が周知されていくのではないかと思います。成果が上がらなくてもこの言葉を思い出して何事も取り組んでいけ

たらと思いました。

最後に質問の時間が設けられました。私はデザインカタログの作成が気になりどれくらいの量のデザインが集まったかを聞きました。格子の種類が約30種、窓が約20種、板庇が約10種、腰板や手摺も多々あって、それを一冊の冊子にしたそうです。その冊子を元に、修復時の都度参考になっているそうです。昔からあるデザインを採用することで街並みの統一感が増すのでよい取り組みだと思いました。

もう一つ気になったのは、古文書の勉強会です。私も学生時代に建築側の教授と古建築の調査に行った時に棟札の解説をする場も見学させていただきましたが、教授でも年代やある程度しか解らないと言っていました。古文書専門の教授はほぼすらすらと解説していました。私も棟札の年代を解説出来ればと思ったことが何度もあるので地域にそういう勉強会がないか探してみたいと思いました。

どのようにしてヘリテージマネージャーとしての活動を仕事に結び付けられたのかという質問がありました。発足するきっかけとなった三重県生活部文化振興室主催の「歴史的・文化的資産保全活用推進員養成講座」に参加していて研究会の会員にもなっている県職の方が、勉強しているだけで仕事にならなければ意味がないと、行政への働きかけや勉強会を積極的に行って道筋を立ててくれたことが最大の要因だそうです。

何か事を起こすときにはそういった方々の協力も必要だと最近思うようになってきていたので、こちらかの要望だけでなく、面倒だと思う事でも行政の方々の要望にも応えていけたらと思いました。

今回の話を聞いたうえで、もう一度ゆっくり関宿を訪れたいと思いました。



(↑分科会の様子)

## 懇親会に参加して

ドライブインあんぜん文化村にて

報告者：桂川 麻里

女性建築士協議会の見学会と分科会が終わった後、18:45より男女混合の懇親会があり参加してきました。

いつもは料理を撮り忘れてしまうので、今回は会場に入ってすぐ撮りました。ブロックではよくその地域の名物が出来てきますが今回は亀山ラーメンがありました。ピリ辛でしたが、美味しかったです。それ以外の料理も美味しかったです。

最初に三重県建築士会の鈴鹿支部の支部長さんの挨拶があり、乾杯の音頭を三重県建築士会女性委員長が行いました。

その後は、同じテーブルの方と挨拶をしつつ美味しいものを食べながら楽しく歓談しました。歓談中に忍者ショーが余興として始まりました。忍者博物館のショーは見たことがありましたが、こんな狭い場所で大丈夫だろうかと心配しましたが、皆さんとてもかっこよかったです。途中で吹矢体験がありました。岐阜県建築士会の長瀬委員長が参加しました。吹矢は難しいと聞きますが一発的に当ててすごかったです。

その後、青年委員さんが毎年後期ブロックで行っている各県の日本酒の利き酒スペースが出来、飲み比べが始まりました。日本酒好きの私としてはとても楽しみにしているコーナーです。私も自分の好きなお酒を皆さんに飲んでもらいたいと思うほど盛り上がりました。

その間にも、各県の方々や連合会の副会長と今後の士会のお話をしたりと充実した時間を過ごしました。



(↑左手前の腕が亀山ラーメンです。)



(↑懇親会場の様子)

会議のお菓子の説明がありました。昨日見学した、関宿深川屋の「関の戸」でした。赤小豆の漉し餡を白い求肥皮で包み、その上を阿波特産の和三盆でまぶしてあるお菓子です。三重県はお茶の出荷量が全国3位だそうです。



(↑プレーンと伊勢茶味の2種類の関の戸)

## 平成 30 年度

### 東海北陸ブロック会後期定例亀山会議

#### 女性建築士協議会 会議報告

報告者:長瀬 八州余

2日目の9時から 11 時半まで、亀山市文化会館中央コミュニティセンターにて開催されました。

相談役の福井県 吉田輝代美さんがインフルエンザの為欠席で、急遽、前相談役の愛知県 筒井裕子さんが対応されました。

来賓三重県建築士会の会長 森本則晃氏の挨拶の中で、平成 30 年度の建築士合格者の女性の割合が1級は 22.6%、2級が 30.7%であったという話をされました。自分たちの頃と思うと本当に建築関係の女性が多くなったのだと思いました。



(↑今回来賓で三重県建築士会会長の他に連合会女性委員会委員長の小野全子氏も参加されました。)

各県の活動報告がありました。

福井県:

7月 4 日(水)に女子会として料理体験及び意見交換会を LIXIL ショールームでおこない、平日の夜に 10 名ほどの参加があったということです。

7月7日(土)小学校で PTA 活動の一環として住教育をおこない、親子で 58 名の参加があったということでした。

愛知県:

毎月委員会が開かれているが、名古屋市内がほとんどだったので、今年度の4月は豊田支部が主になり豊田スタジアムでおこなったということでした。

石川県:

1月27日(日)能美市防災センターで勉強会を行い、火災の体験を通して、排煙窓の大切さを実感したと共に、オペレーターの位置がすごく大事だと感じたと話されました。

富山県:

11月12日(月)研修会で富山市消防局予防課の方と富山県土木部建築住宅課の方2名を講師に迎えて「空き家等からの用途変更における消防法及び建築基準法の適用を学ぶ」を 36 名の参加ですごくためになった研修会であったという説明でした。質疑の時にその時に使われたテキストが、外部資料として OK なら、参考資料にしたいという意見が出て、問い合わせをしていただけの事になりました。

三重県:

手書きパース教室を昔から続けていて、良い交流の場になっているとい説明でした。

今年度はブロック後期亀山大会一色だったようです。

連合会女性委員会、東海北陸ブロック会、青年建築士協議会の報告がありました。

平成 30 年 7 月 13 日(金)建築士会東海北陸ブロック会議 第 1 回に吉田さんと大森さんが参加されました。その時に女性建築士協議会の予算をいただけるのですが、その前の 6 月にブロックの前期が開催されて、各県に活動費が支払われます。今までは繰越金でやりくりできていましたが、今年度初めて、マイナスになりました。年間の収支が -10,000 円ほどになるので、繰越金が減っています。そこの所を心得ておいてくださいという説明でした。

役員承認では、2019 年度は 2018 年度と全く同じ顔ぶれだそうです。

各県異動がなかったのですね。

2019 年度前期定例会議は福井県です。

2019 年 6 月 22 日(土)福井県国際交流会館です。福井県から提案で、13:00 前から会場を使用すると午前と午後の使用料が発生するので、

準備開始が 13:00~13:15

受付 13:15~13:30

会議 13:30~16:00

オプションの見学会(養浩館庭園) 16:30~

ではどうでしょうかという提案でした。

会館使用料がどれだけ違うのかの資料等がなかったので、もう一度検討をしていただく事になりました。前期の予算は 50,000 円です。

2019 年度後期ブロック愛知大会

2020 年 2 月 22 日(土)~23 日(日)

22 日

開会式、ワークショップ:(公社)愛知建築士会 会議室  
車・送迎バス

KKR ホテル名古屋にてチェックイン

徒歩移動

30 周年記念懇親会: 白川別邸日本料理 大森

23 日

後期定例会議・閉会式: KKR ホテル名古屋「菊の間」  
徒歩移動

オプション見学会: 金シャチ横丁自由散策(昼食)名古屋城本丸御殿見学 解散

その他の協議事項で 2022 年の全建女について

2018 年高知→2019 年東京→2020 福岡→2021 東京

→2020?

連合会としては東海北陸ブロックで開催されてからずいぶんと間があるのでどうでしょうかという提案がありました。

各県の返答はどの県もできませんということでした。

愛知県と岐阜県は過去に開催した事があり、又 2022 年度は、前期、後期の開催県なので、とても無理ですと話しました。

石川県はどうでしょうかという流れになっているようです。



(↑各県活動報告の様子)



(↑会議場の全体の様子)

後日、富山県女性委員から連絡があり資料のデータを提供していただく事ができました。

・民泊の安全措置の手引き(国土交通省)

2446b46f1ee22de467d1d4a8c4784df254f30411.pdf

・建築基準法の一部を改正する法律 概要(国土交通省)

a40b5c5ab4fd030a4c493c76d305e68dfaa4d0a2.pdf



平成30年度

## 建築士免許証明書交付式

日時:平成31年3月2日(土) 11:00~12:30

会場:ぎふメディアコスモス おどるスタジオ

参加者:19名(内女性委員5名)



今回参加された新建築士の方々は、既に建築の仕事をしている方がほとんどでしたが、免許証を手に入れ、建築士としての思いも新たにされたのではないのでしょうか。

岐阜県では、建築士免許の交付式は平成27年度から行われています。建築士の仕事内容は設計、施工、行政等と様々であり、このように交付式を行い交流の場を設けることで、新たに建築士となられた方に建築士会の活動内容を知っていただく機会の一環となっていることを実感しました。



(↑横井会長 挨拶)

## 建築士免許交付式の報告

報告者:岡田 利里

3月2日にメディアコスモスで行いました平成30年度建築士免許の交付式には、新たに建築士となられた、一級建築士4名、二級建築士3名、木造建築士1名が参加されました。

建築士会の横井会長、大石副会長が挨拶をされ、免許証の授与が行われました。皆さん緊張した面持ちで免許証を受け取ってみえましたが、その後の軽食を取りながらの交流会では、終始和やかな雰囲気でした。

交流会では、新建築士の方々と、建築士会の10名の参加者が交流する中で、建築士会の意義について、新建築士の方たちに知って頂くことができたのではないかと思います。岐阜県都市建築部建築指導課課長の加藤仁様からは、『これからは、前例に倣った設計をしているだけの建築士は、仕事が無くなっていくのではないかと。普段から、基準法の改正や新しい工法について、考え、勉強をしている建築士が残っていくのではないかと。』というお話を頂き、私も身の引き締まる思いがしました。



(↑女性委員会の活動の説明をしました。)



(↑交付式後の茶話会の様子)



## 第18回 気楽にらくだ会

日時:平成31年3月2日(土) 13:30~15:30

会場:ぎふメディアコスモス おどるスタジオ

(岐阜市司町 40-5 電話 058-265-4101)

参加者:19名(内女性委員11名)



(↑先生を囲んでの茶話会の様子)

【テーマ】心地いい暮らしの仕組みづくり『キッチン・水まわり収納』

【講師】Coco Natural 主催 竹内 靖子先生

## セミナーに参加して

報告者:松村 久美子

女性委員会では整理術講座を4回開催してきました。今回は5回目となりキッチン・水まわり収納についてお話していただきました。

私は初めての参加で、ライフオーガナイズ、利き脳のお話しから引き込まれました。

ライフオーガナイズでは思考の整理、時間・情報の整理からはじめ、自分に合った方法を知りみつけます。そして暮らし、人生の最適化をするということでした。

利き脳は自分が左脳(論理的・言語・数学)右脳(直感的・イメージ・ひらめき)のどちらを得意としているかを知り自分にあった収納整理を知るヒントになります。

インプット(考え)には指を組んでみる。アウトプット(行動)は腕組みをして知ることができました。自分のタイプを知りまわりからは、え〜?や、やっぱり。の音が聞こえてきました。一緒に住む人の利き脳を知ることもストレスを増やさないために重要です。

＜楽に維持できる仕組みをつくるには＞順番が大事  
暮らしの土台づくりをする。竹内先生から土台づくりは皆さん得意ですね。と

土台づくりをしてから使ったら元に戻す。を習慣化させる。

＜理想のキッチンを考える＞

大切にすること優先することを考えキッチンのテーマを見つける。

収納のポイントは自分の基準で選んで使いやすい場所を決める。使いやすい仕組みをつくることでストレスが減り時間、気持ちにも余裕ができる。

私も出来た！！が自信と達成感につながる。

＜暮らしやすい仕組みづくり＞家はほっとする場所 ほっとできる空間

やる気、効率、生産性、コミュニケーション力が高まり誰もが笑顔で暮らせる社会に。

竹内先生の分かりやすいお話しで私もやる気が出てきました。まずは思考の整理！



(↑横井会長の挨拶)



(↑セミナーの様子)



## 女性委員会 30 周年記念事業

### 聴竹居・アサヒビール大山崎山荘

#### 美術館見学会

日時: 2019 年 4 月 20 日

会場:

聴竹居: 京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字谷田

アサヒビール大山崎山荘美術館: 京都府大山崎町銭原 5-3

参加者: 20 名(女性委員 9 名、一般士会員 7 名、賛助会委員 3 名、一般 1 名)



(↑ 建物前にて集合写真)

聴竹居建物内部と美術館内部の写真を HP 等に掲載することはできませんので、内部写真はありません。

## 「聴竹居」の見学を終えて

報告者: 宇佐美 泉

4 月 21 日(土)、好天に恵まれ順調に京都大山崎に着き、JR 山崎駅前から徒歩で天王山の中腹まで 20 分ほどで、「聴竹居」に着いた。大きなモミジの木々の中に、すっぽりと隠れるようにその建物はあった。

建築家・藤井厚二氏が、実験住宅として昭和 3 年に建築した木造平屋建て住宅で、これが 5 件目の自邸だった。椅子の生活を主として、来客等の空間は可能な限り減らし、家族の居住空間の快適さを第一に考える。特に、夏季の生活の快適性を考慮した設計がされていた。

居間と和室の床の段差を利用し、その蹴上の部分に導気口が設けられていて、外のすがすがしい風を山の下から地中に埋め込んだ土管を通して部屋まで持ってきて、導気口からその冷気を取り込み、部屋の温度を下げる事が考えられていた。室内の暖まった空気は天井排気口によって外へ排出し、夏季の生活をより快適に考えられていた。又、床下換気口や、通気筒(台所に設置)を設けて通風を確保した。夏を過ごしやすい住まいを考えていたので、冬は大変寒かったようで電気暖房機器で暖をとったとの事。

台所は、当時では最先端のオール電化であったことも驚きだった。天井は高く、室内は明るく清潔感があり、従来の日本の台所のイメージを覆していたが、電気代は、とても高かったようだ。

台所に隣接する食堂や来客の応接室は、そんなに広くなくコンパクトだったが、そこかしこにちょっとしたしつらえがしてあった。居間は、建物の真ん中に位置していて、そこに座っていればすべての部屋がみわたせる、気持ちの良い空間だった。

縁側からみた外の景色はとても良く、夏は直射日光が当たらず、冬には陽が入って暖かくとても気持ちの良い空間だった。前庭のモミジの大木が丁度よい位置にあり、雨戸がないにもかかわらず建具やガラスが汚れたことがないとの事。軒の出は勿論のこと、木々の位置まで考えて設計されていた。

外に出て、手入れされた木々は、高木はモミジを中心とした落葉樹で、低木は常緑樹で構成されていた。建物外観は、軒の出を深くして夏の直射日光を防ぎ、雨季には雨を防いだ。屋根勾配は、2 1/100 で銅葺きの緩やかな屋根で、棟付近は瓦葺にし、4 5/100 の勾配にしてあるようだ。

昭和 3 年に竣工したのに、室内外共にとてもモダンで現代でも違和感なく、環境共生住宅とも言われていて、これは言い換えれば最先端な住宅ともいえるのではないだろうか。

本屋(母屋)の見学を終えて、本屋の北側にある閑室(藤井氏自身のプライベートルーム)も見せてもらった。そこにはトイレがあったが、当時では珍しい水洗トイレで、本屋もそうだったので大変驚いた。

一通り見学を終えて、本屋の居間や縁側で又は外で、各々お弁当を食べた。とてもおいしいお弁当だった。

最後に、藤井厚二氏は茶道・華道・絵画・陶芸等多彩な趣味があり、「聴竹居」は自身の雅号からつけられたようだ。



(↑ JR 山崎駅から徒歩移動中の様子)



(↑室内でお弁当をいただく事ができました。)



(↑ 聴竹居入り口にて集合写真)



(↑ 2018年の大阪北部地震と台風で大きな被害を受けた国の重要文化財「聴竹居」は、国（文化庁）と京都府、大山崎町の災害復旧事業の予算を得て、本屋と閑室の外壁及び屋根瓦の修復工事を始めています。)



(↑ 空気取り入れ口の様子)

## アサヒビール大山崎山荘美術館を見学して

報告者：長瀬 八州余

午前7時15分にJR岐阜駅じゅうろくプラザ前にて集合して、JR山崎駅にてバスを降り、「聴竹居」へ向かいます。予約をしていた時間より早くに着いてしまいましたが、こころよく中に入れてくださいました。2班に分かれて、係の方より説明を受けます。注文していたお弁当を室内でいただく事ができ良かったです。

次に徒歩移動で「アサヒビール大山崎山荘美術館」へ向かいます。

今回特別展は2019年3月21日～6月9日まで「没後40年バーナード・リーチ展—山本為三郎コレクションより」を展示していました。

大山崎山荘は大正から昭和初期に、実業家・加賀正太郎が別荘として自ら設計した英国風の山荘です。その後、加賀家の手を離れた山荘は、平成に入って、取り壊しの計画もありましたが、アサヒビール株式会社が貴重な文化財を後世の伝え、その保全・活用を通じて豊かな社会を創出するために、京都府、大山崎町と協力して山荘の復元整備を行い、1996年春「アサヒビール大山崎山荘美術館」となりました。

所蔵品の中核を成すのが、美術館開館に際して寄贈された、朝日麦酒株式会社（現アサヒビール株式会社）初代社長・山本為三郎によるコレクションです。河井寛次郎、濱田庄司、バーナード・リーチ、芹沢銈介、黒田辰秋らの作品をはじめ、国内外の工芸の名品が含まれています。

建物も本館の他に、安藤忠雄設計の「地中の宝石箱」(地中館)「夢の箱」(山手館)と別れていました。

ここは自由見学でした。2階のテラス席でお茶をして、景色を眺めます。

参加者の皆さんが協力的で、時間にキチンと集合していただき、早め早めの行動ができ、帰りもスムーズに帰ることができました。

参加者の皆様には感謝です。ありがとうございました。

お天気もよく、楽しいバス見学会となりました。



(テラスでの様子)



(↑ 行きのバスの様子)



(↑ 庭の様子)



(↑ トネルを通過して美術館へ向かいます。)



(美術館本館前にて集合写真)

## 🌸 編集後記

44号をお届けします。  
平成30年度後期の報告となっています。  
今回はサツキをマークに使用しましたがいかがだったでしょうか

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。  
また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会  
岐阜市藪田南5丁目14番地12号  
岐阜県シンクタンク庁舎4階  
TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367  
<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>  
E メールアドレス [kensi578@juno.ocn.ne.jp](mailto:kensi578@juno.ocn.ne.jp)  
※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

